



王国産



五
五
五
五
五

モ
モ
ト
ヤ
マ
ト



カホーニ



広びろ
独り占め〜

ふい〜っ
早朝の風呂は
最高でござる



やあ

ここにおナミやおロビが居れば言うこと無しなんじゃが…



失礼
ボクもいいかい？

もちろんもちろん
ひとりではしゃいでスマンでござる〜



あは

あは

ド
ド
ド



じゃまするよ〜

わっ

ズッ
ズッ



キミも
そう思うだろ

ぷるん



やっぱり
朝風呂に
かきるねえ

ぷかあ



そ、そうで
ござるな...

むむむ
おナミ達より
デカイ...

ニヤ





これで届くかな



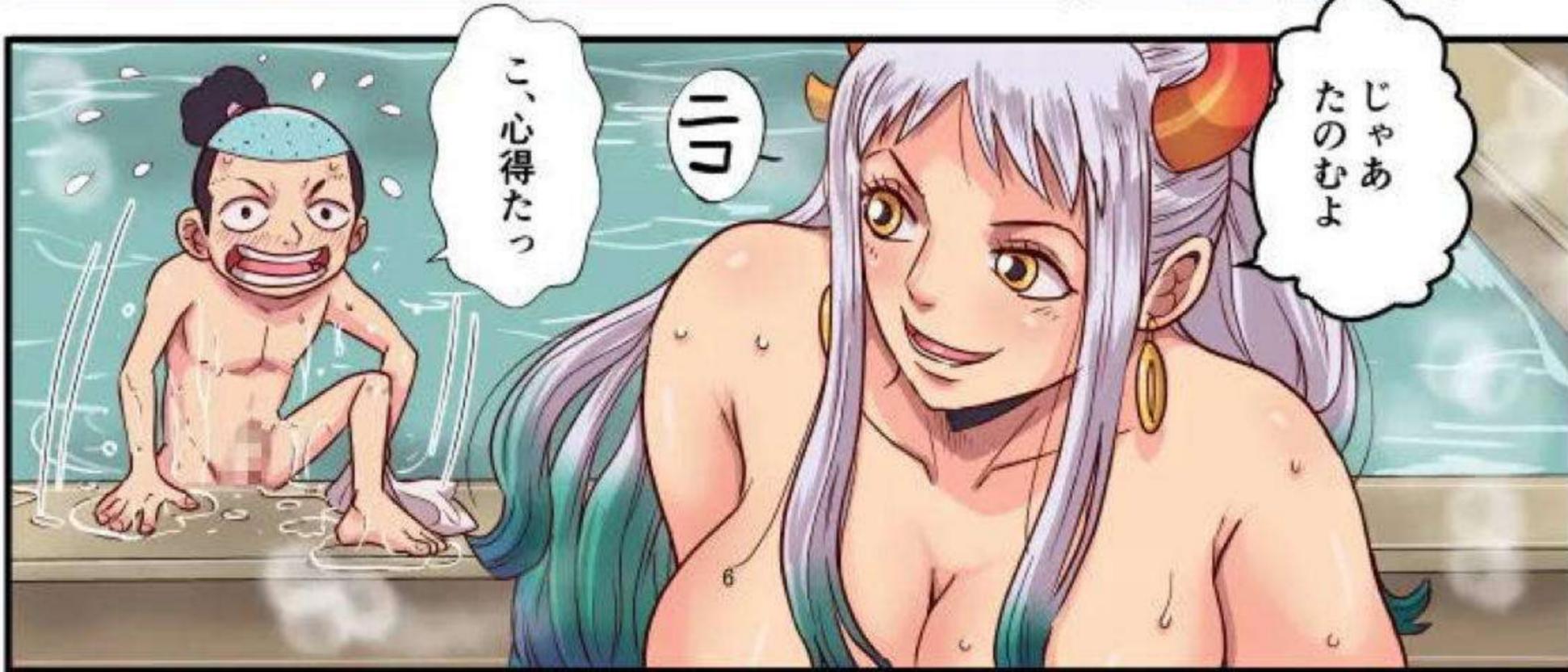
ゴッ



ああ
そうか

ぺた

ぺた



こ、心得たっ

ニッ

じゃあ
たのむよ



大迫力…



うへへ…
後ろからなら
勃ってるのも
バレないでござる

エ

エ

ん



隅から隅まで
念入りに
いたすから



ごめんよ
広くて大変かも

拙者に
任せるでござる

グミ

グミ



こんな日が
来るなんて
思っても
みなかったよ

うれしいなあ
まさか光月おでんの
息子に背中を流して
もらえるなんて...



あ、ごめんよ
もう少し強く
お願いしても
いいかい？

あ

あ



あーいいね
その調子









ご無礼



ヤマトどのは立派な身体だから届かないなあ



あははっくすぐったいよ

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽん

ぽん



ちよつと！
おっぱいばかり
洗ってないか？



んんん...

ゴッ

ゴッ

ゴッ



そうか
ご当主とはいえ
キミはまだ
子供だものね

あ

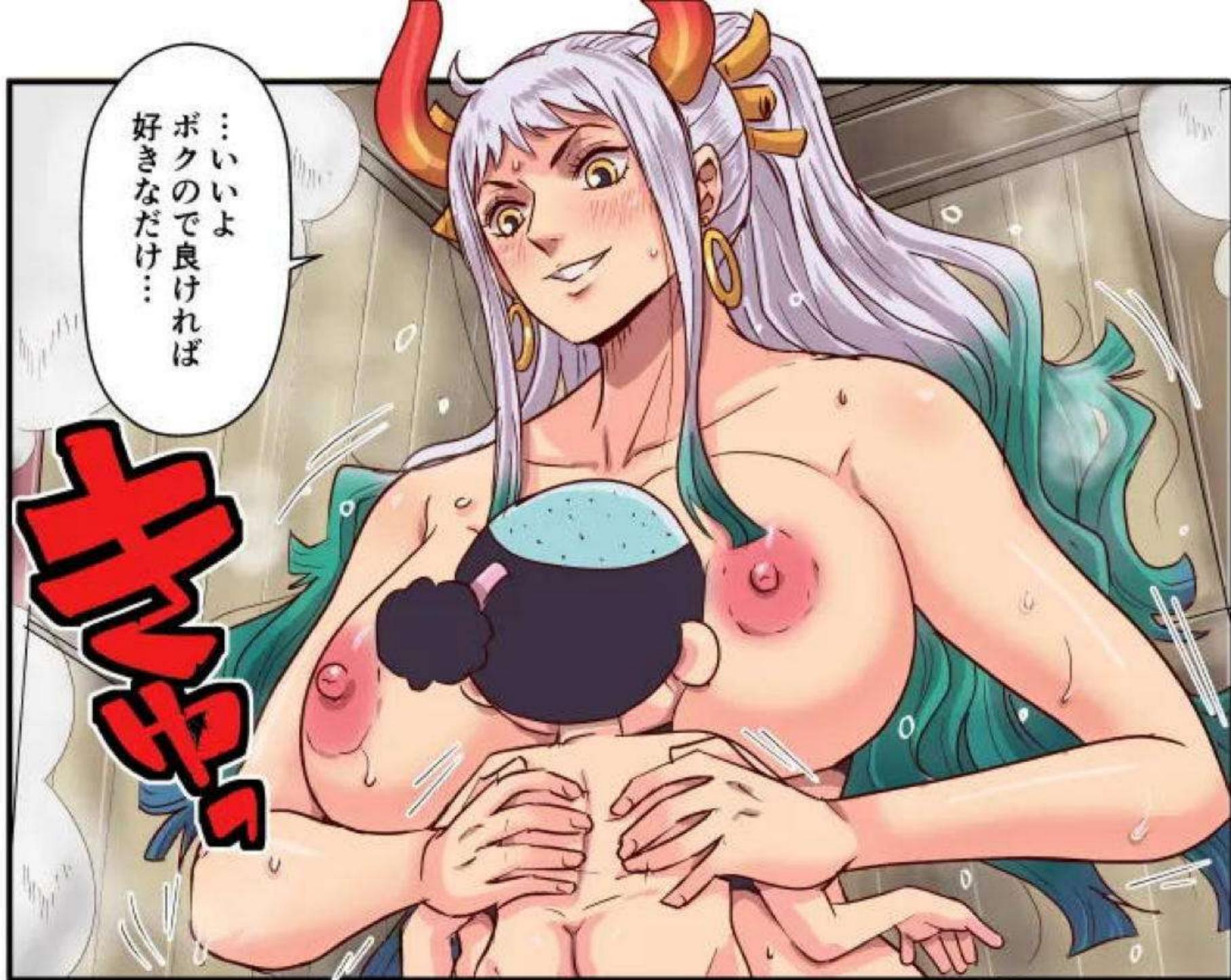
え



ス、スマンで
ござる

拙者つい
母上のことを
思い出して
しもうて...

びい



…いいよ
ボクので良ければ
好きなのだけ…

まっ



おぬしの
やさしさに
感謝できさる

ニク

まっ



でまかせで
あったがこれは
千載一遇の
好機なのでは



モモの助くんっ
そこは強く
握っちゃあ…っ

吸っても
乳は出ないって

ちゅぽ

ちゅぽ

ちゅぽ

引っ張るのも
ダメだよっ

サッパッパッパッ







ヤマトの身体
大きくて柔らかくて
たまらないで
ござるう…

はー

はー

はー

ジュル

ジュル

ジュル



しかも
お腹にぶち撒いて…
どうしよう

ビクン

ビクン



ああまた
白いおしっこが
漏れてしまうた

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ



モモの助くん

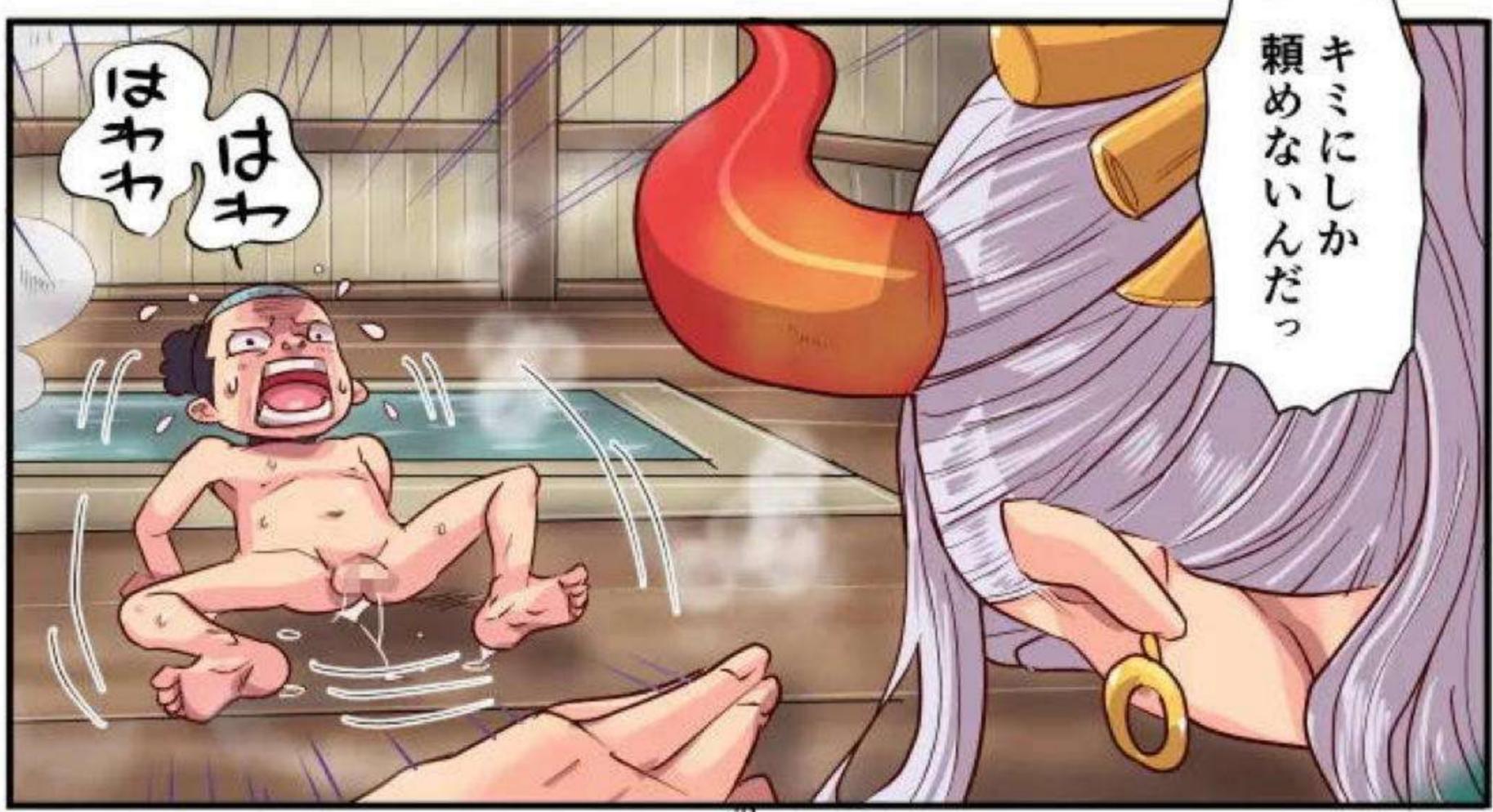
あう…
すまぬっ
わざとじゃ
ないでござるう



頼むっ
すべてが
すべてが終わったら...

ボクを
女の子に
してほしいっ

ん



キミにしか
頼めないんだっ

はわ
はわ



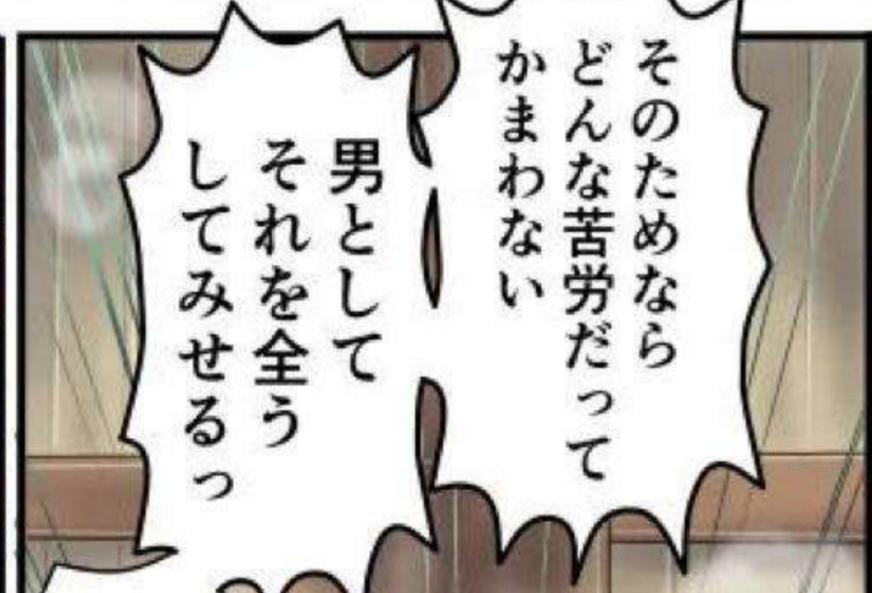
ボクは
光月おでんの
志を受け継ぎ
生きると決めた

親父カイドウ達に
荒らされたこの国を
元の素晴らしい
国に変えるためにっ



…でも

でも光月の
おでんの息子の
キミにだけは



そのためなら
どんな苦勞だっ
かまわない
男として
それを全う
してみせるっ

この国の
人たちのために



生まれたまま
本当のボクを
見てほしいんだ

わがままは
わかってるけど
どうか…

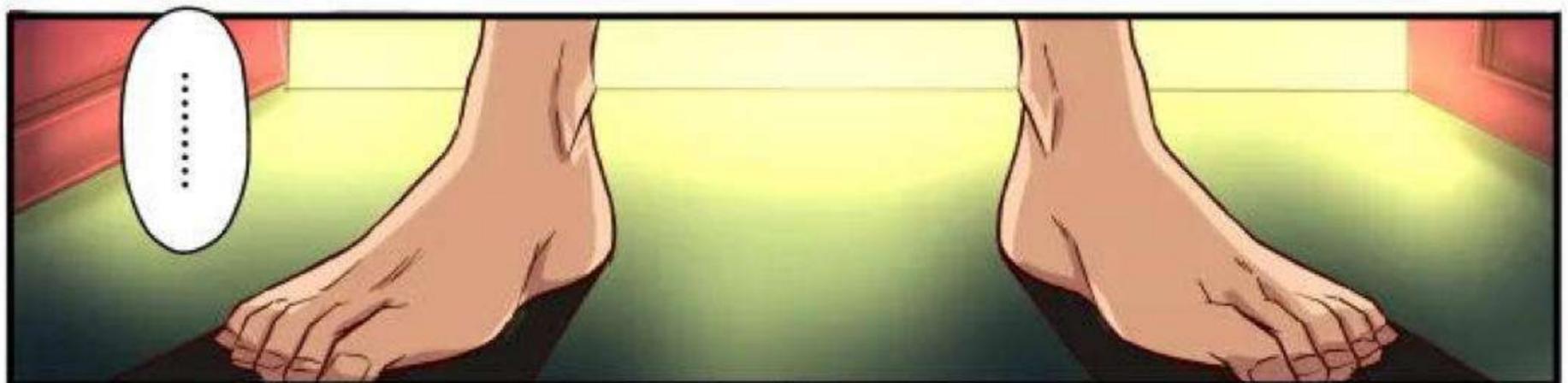
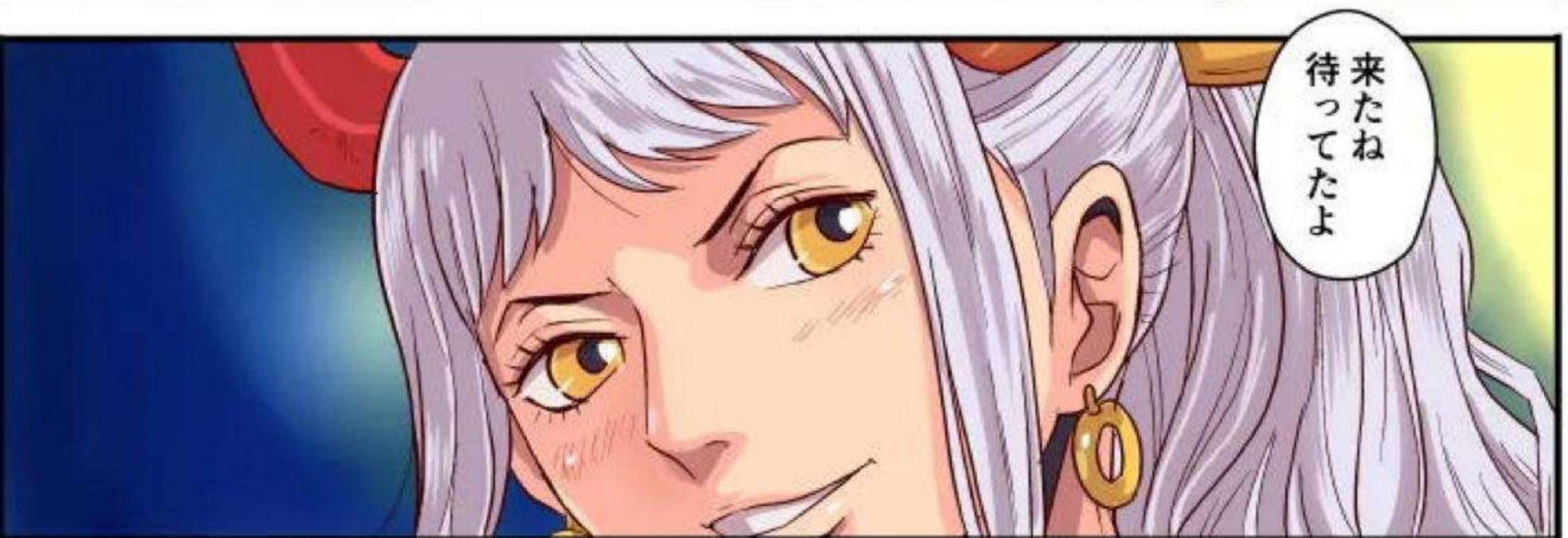
その後二人は
残党狩りや
未知の敵達を
退け



わあああ ああああ...

世の平定に
成功したので
ある







す、すまんで
ござる...



ふふふ
そんなに
緊張しないでよ



ゴメン



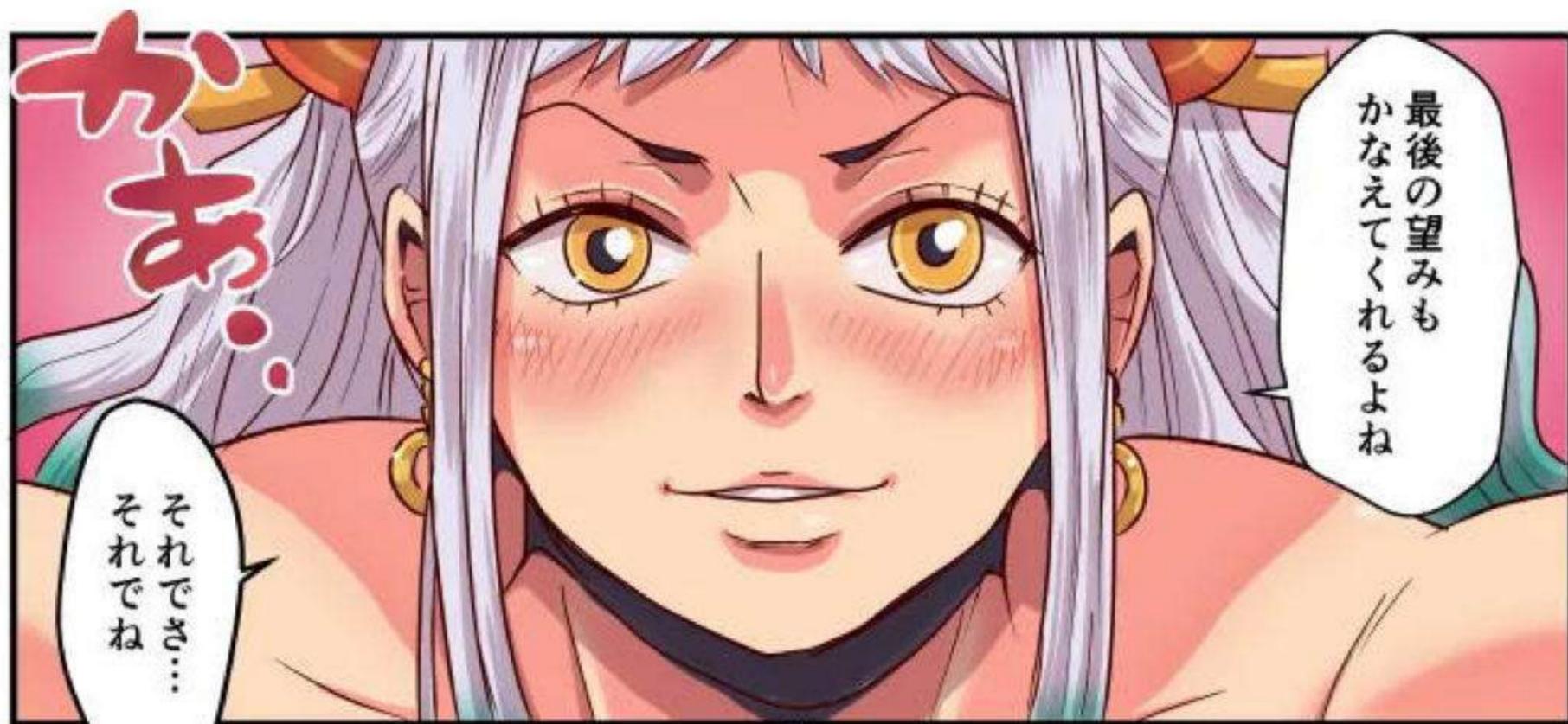
モモの助くん

とうとう
やり遂げたね



ありがとう
さすがボクが
見込んだ漢だ…

それじゃあ



最後の望みも
かなえてくれるよね

それでさ…
それでね

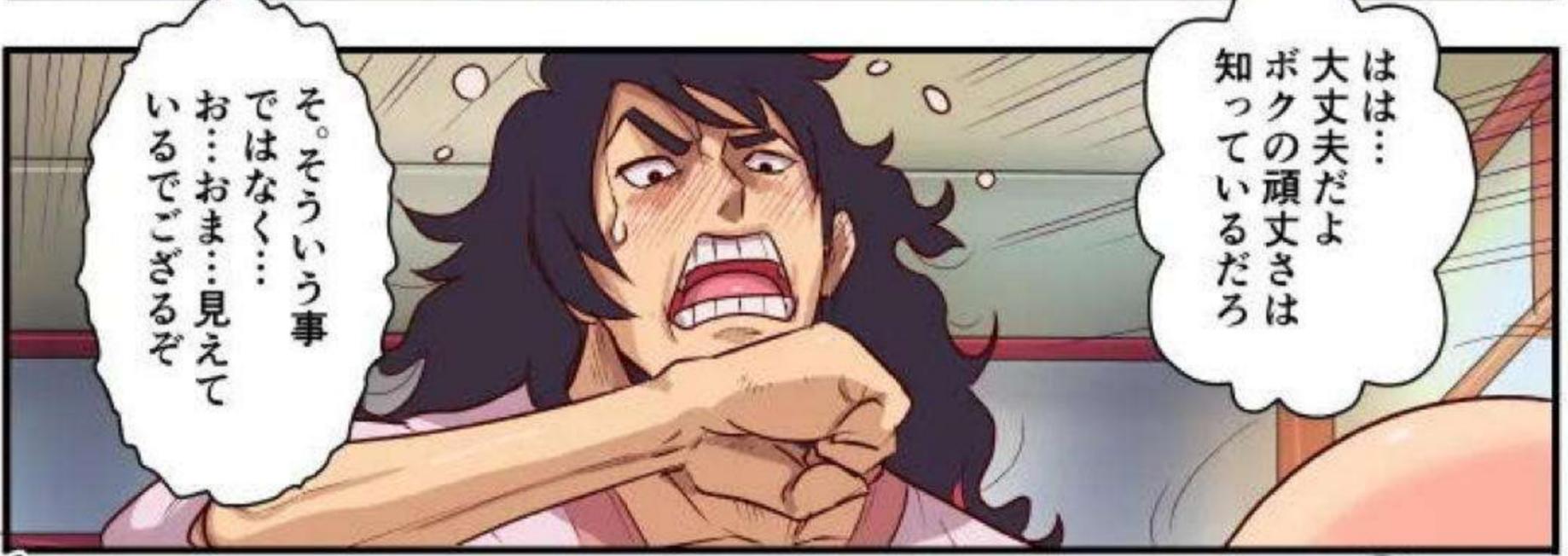




光月モモの助くん
キミにだけは
本当のボク、ヤマトを
見てほしい

ほらお尻
叩いたって
良いんだよ

いっ



はは…
大丈夫だよ
ボクの頑丈さは
知っているだろ

そ。そういう事
ではなく…
お…おま…見えて
いるでござるぞ



モゴ



ああ…
見たいのかい？
いいよ拡げて
見てよ

まことかつ



中まで拡げて
みてもいいよ

しからば...



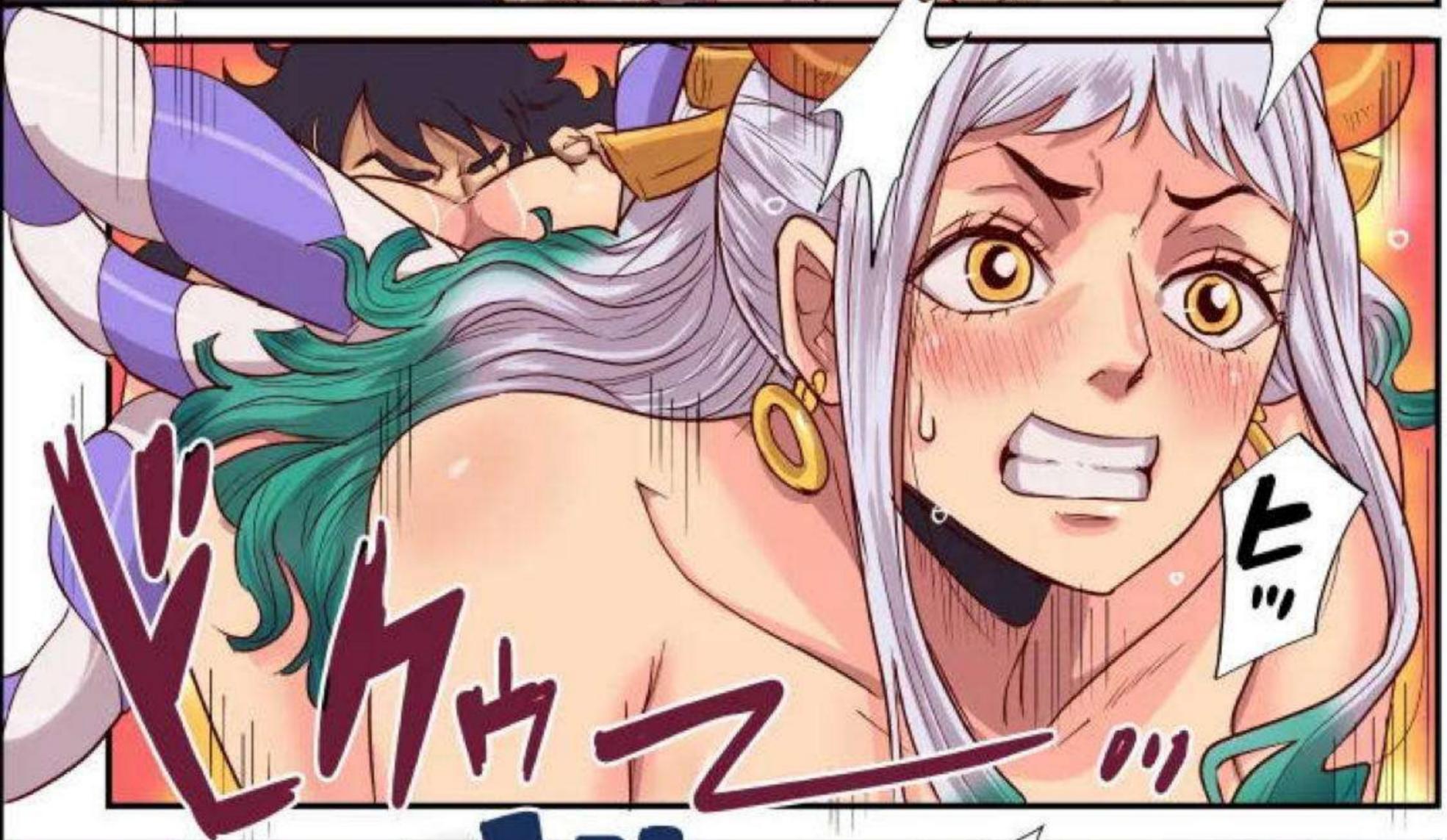
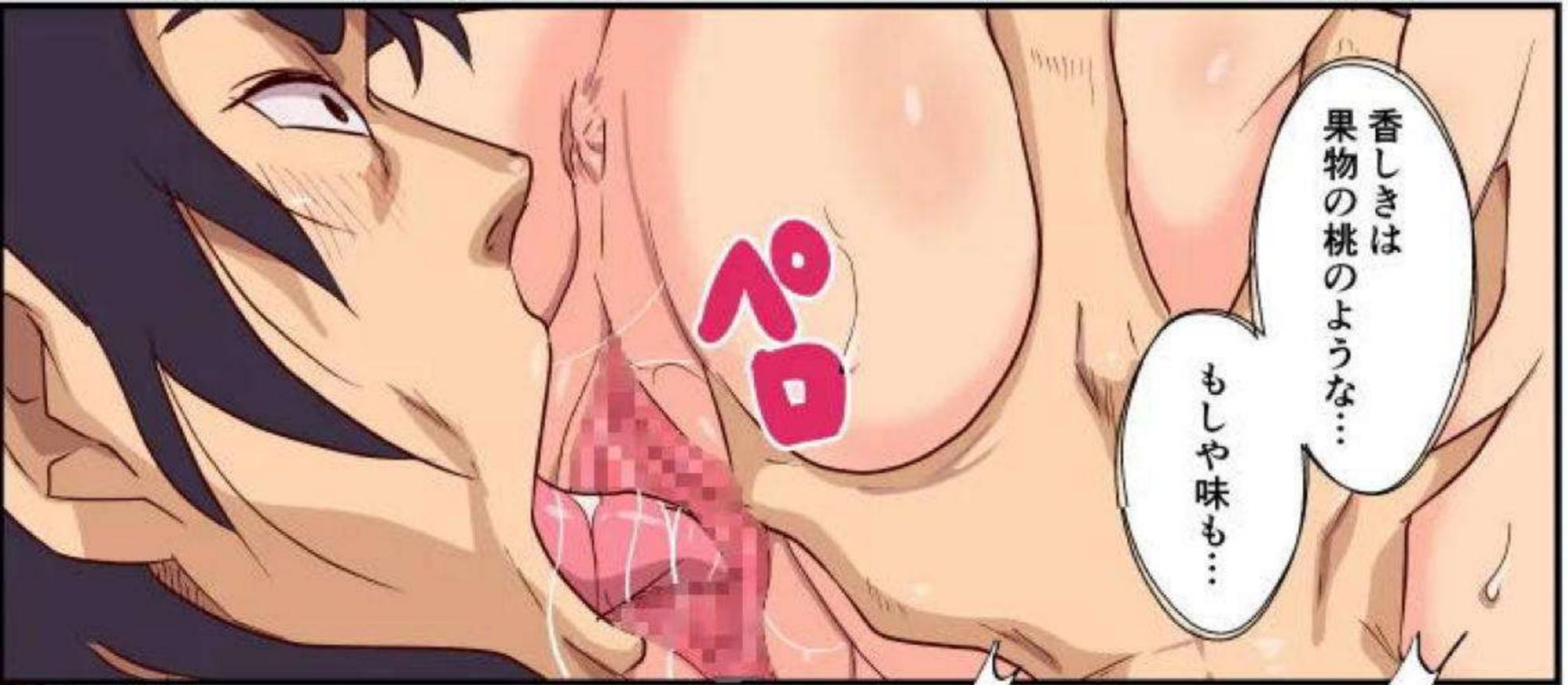
どうだい？

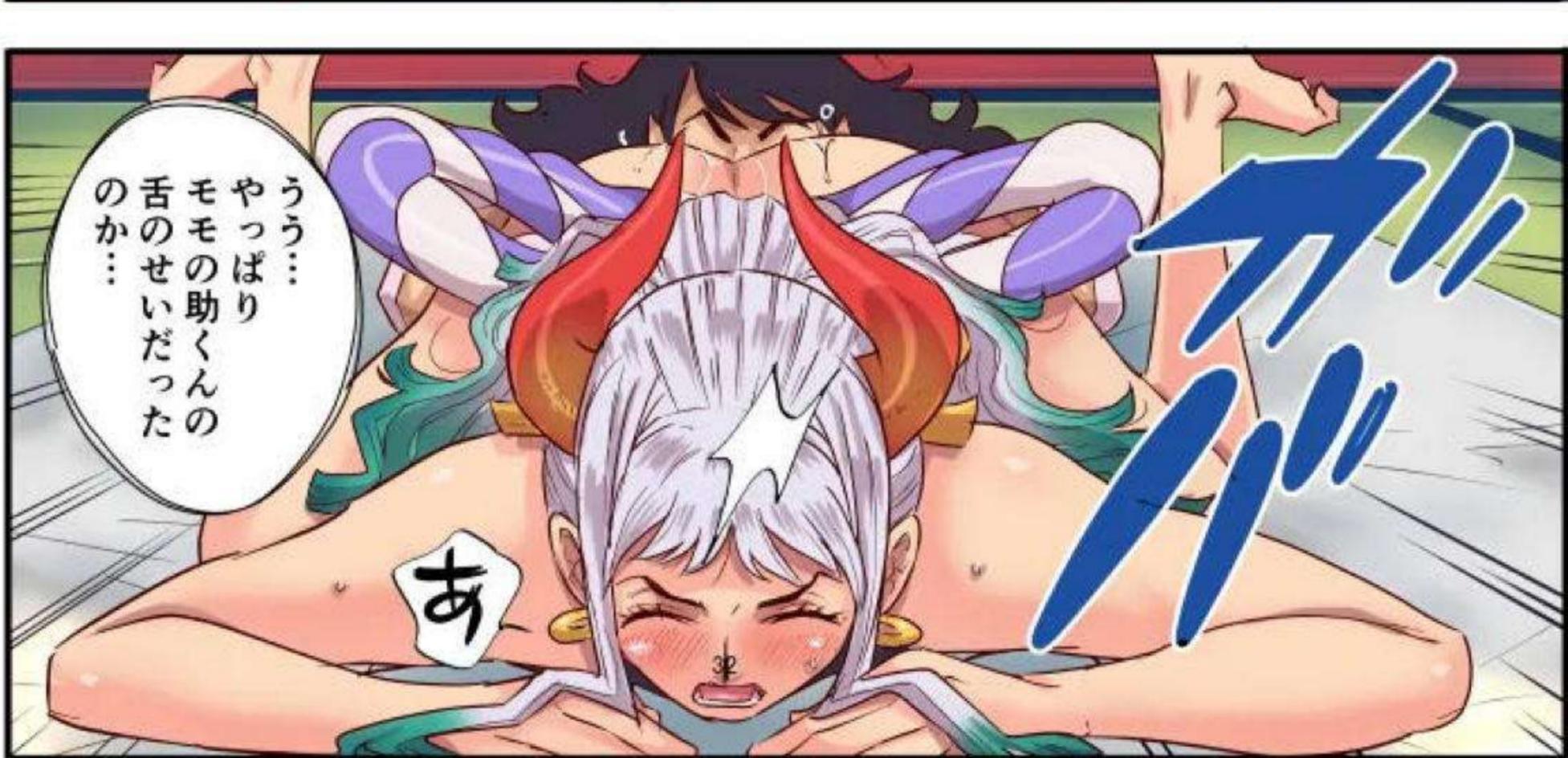
と、とっっても
良い香りが
するでござるう



ちよっと
モモの助くん
くすぐりたいよ

ずららら...







何か…来るっ



身体が勝手に
反応しちゃって…

わあ
ゴメンよ

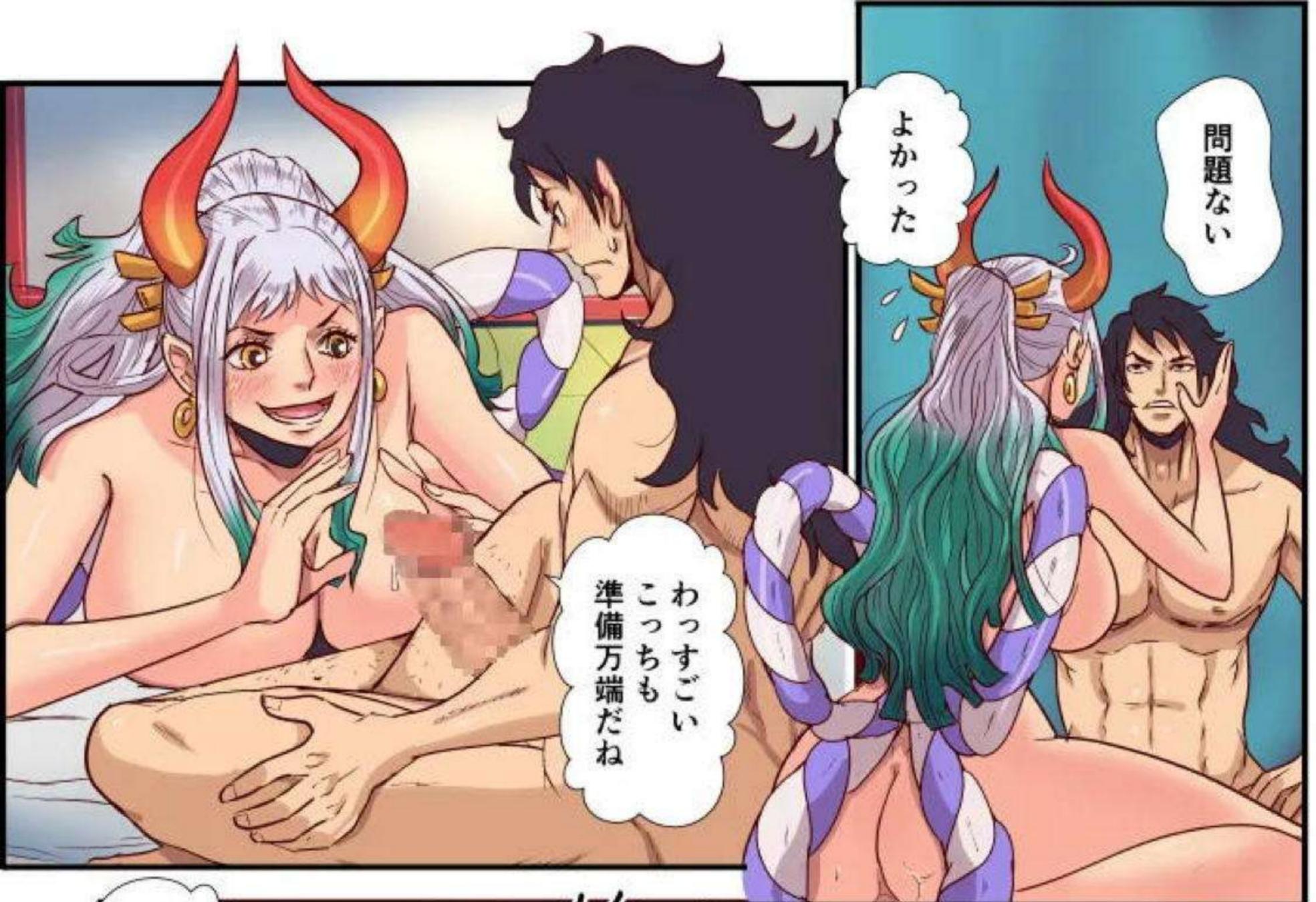
……

20



うおっ

ドクッ



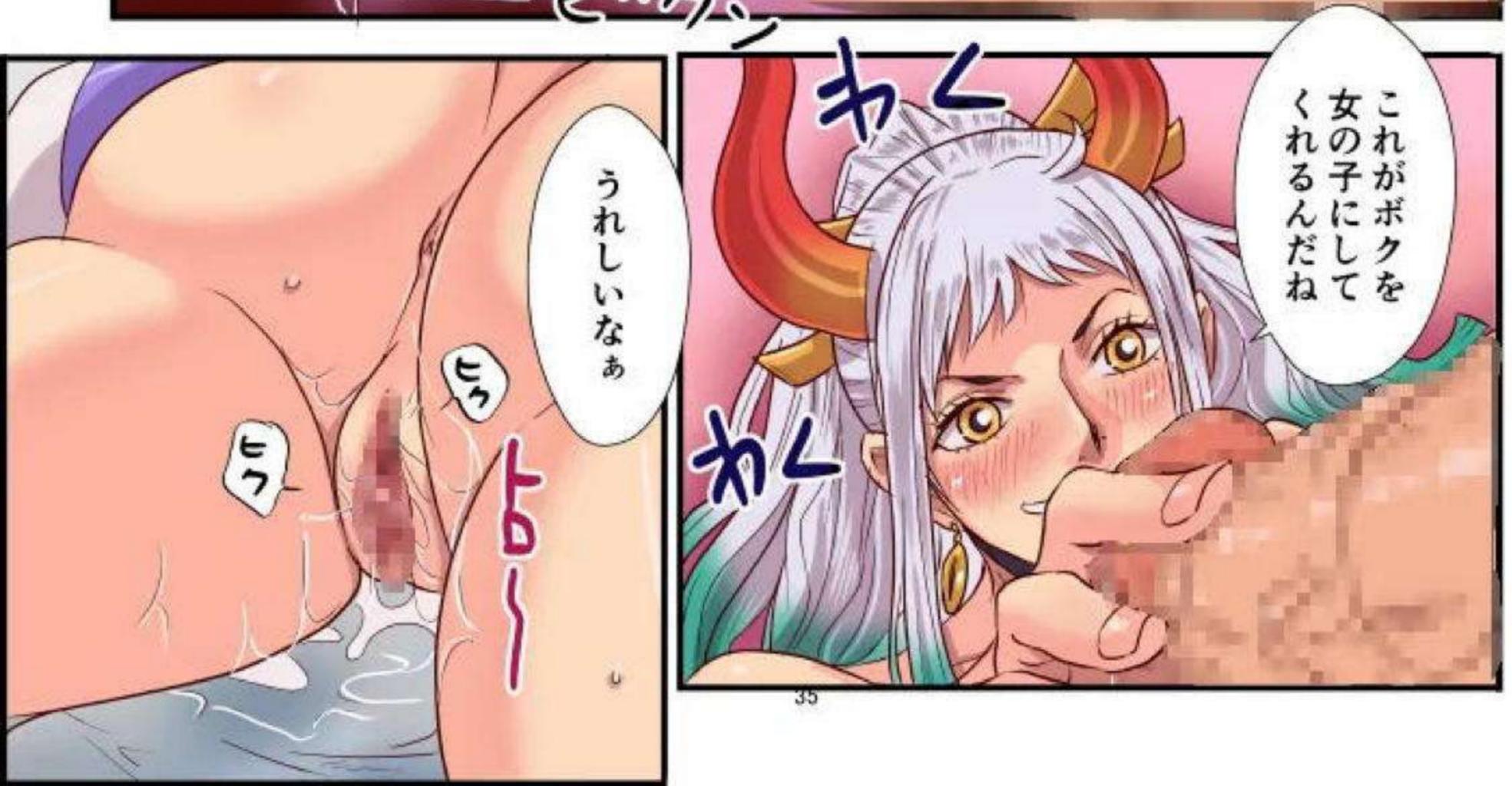
問題ない

よかった

わっすごい
こっちも
準備万端だね

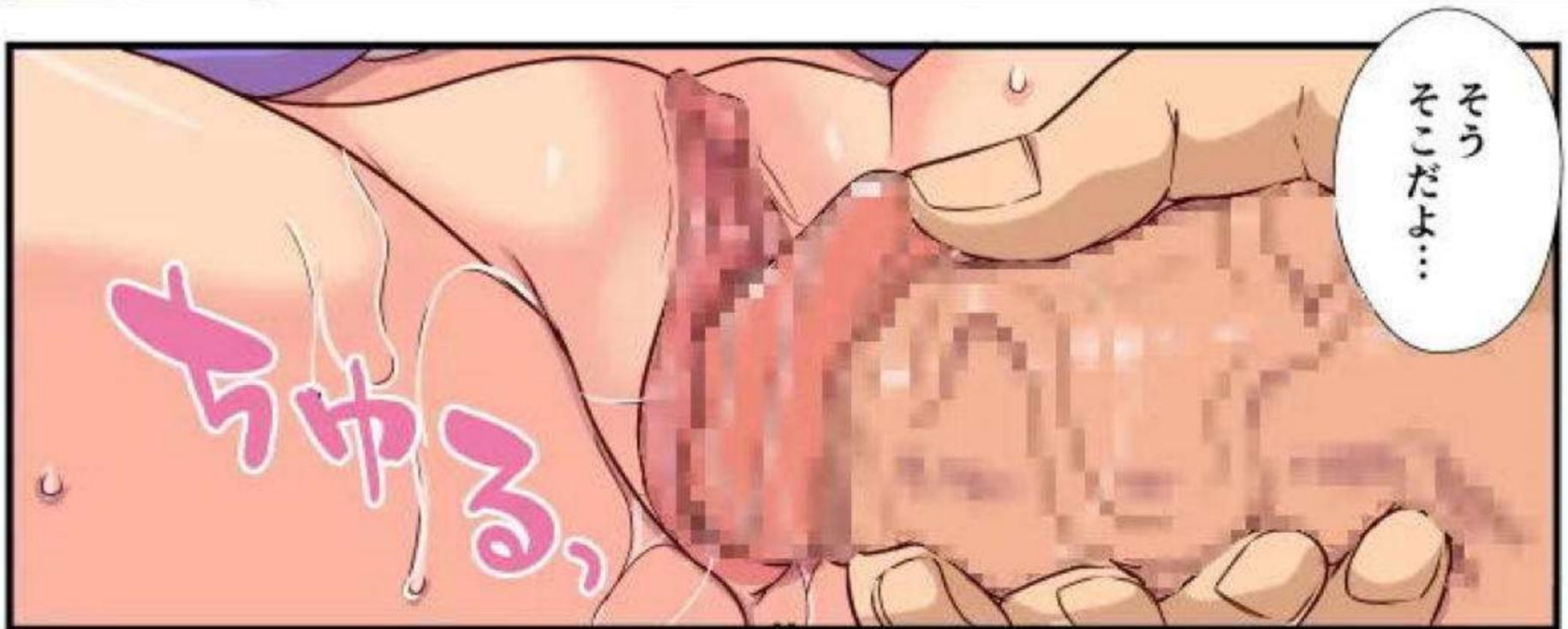


すごいよ
さすが光月の漢
おっきいなあ



これがボクを
女の子にして
くれるんだね

うれしいなあ





ヤマト？



気持ち良すぎる

拙者のチンポを
おまんこが
包み込んで
扱かれておる…



これが
おなごの膣内か

あ

あ



カイドウは
キミたちに
取り返しの
つかない事を
した…

その贖罪は
子供のボクが
果たすべきだ

違うんだ
これは嬉し涙



ス、スマぬ…
痛くしたか？



だったら

心の葛藤は
すべてボクの
中に吐き出して



キミに殺されても
文句は言えない

恨みもあつたらう
でもキミは
ボクを仲間として
伴ってくれた



壊してくれて
構わないよっ

ゴ

バ
ア
ン



オ
オ
オ
オ

ド
ド
ド
ド
ド
ド
ド
ド



叩きつけてっ

は

は

いいよっ
突いてっ



は、あ

あ

ズッ

ズッ
ズッ
ズッ
ズッ

は、あ



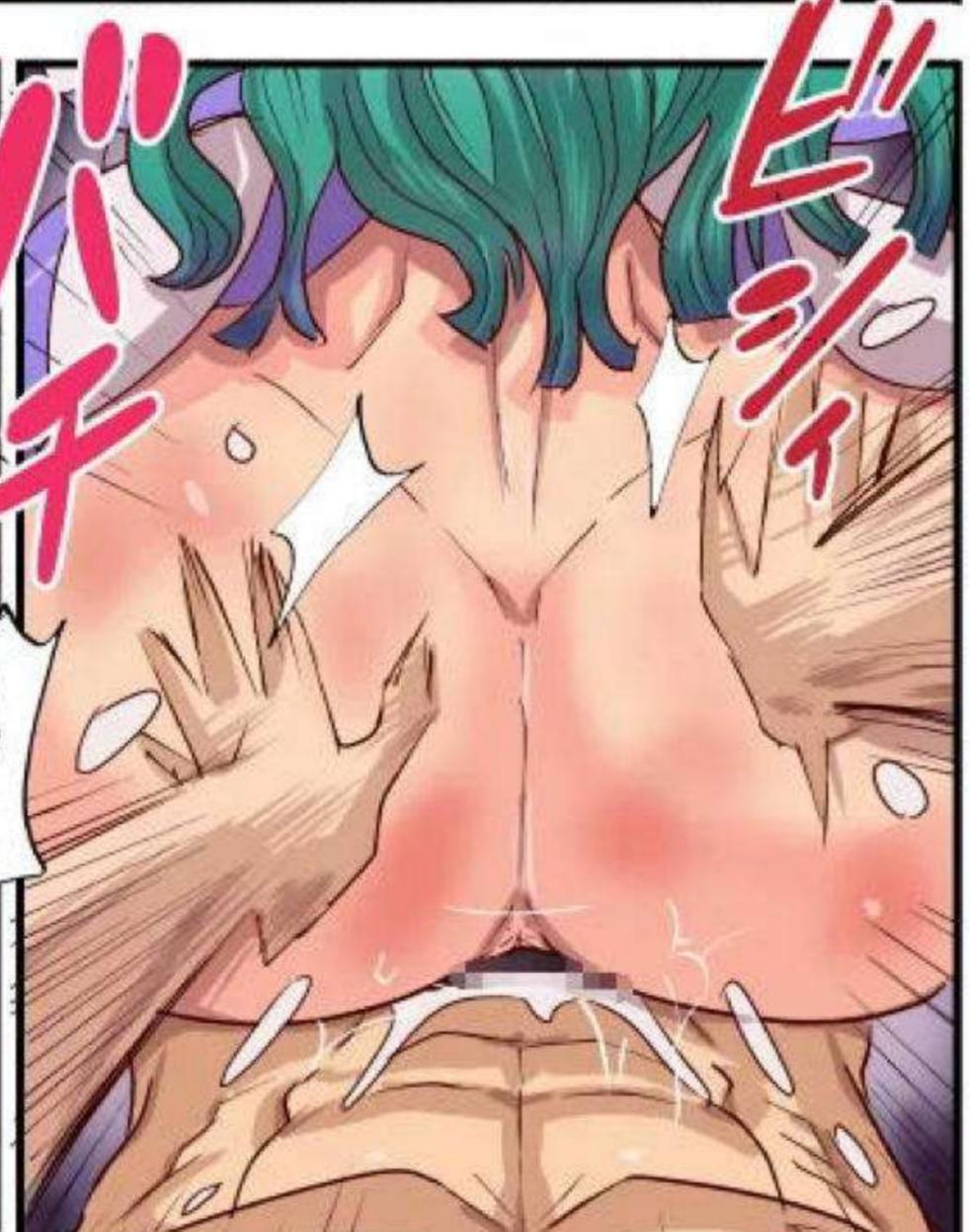
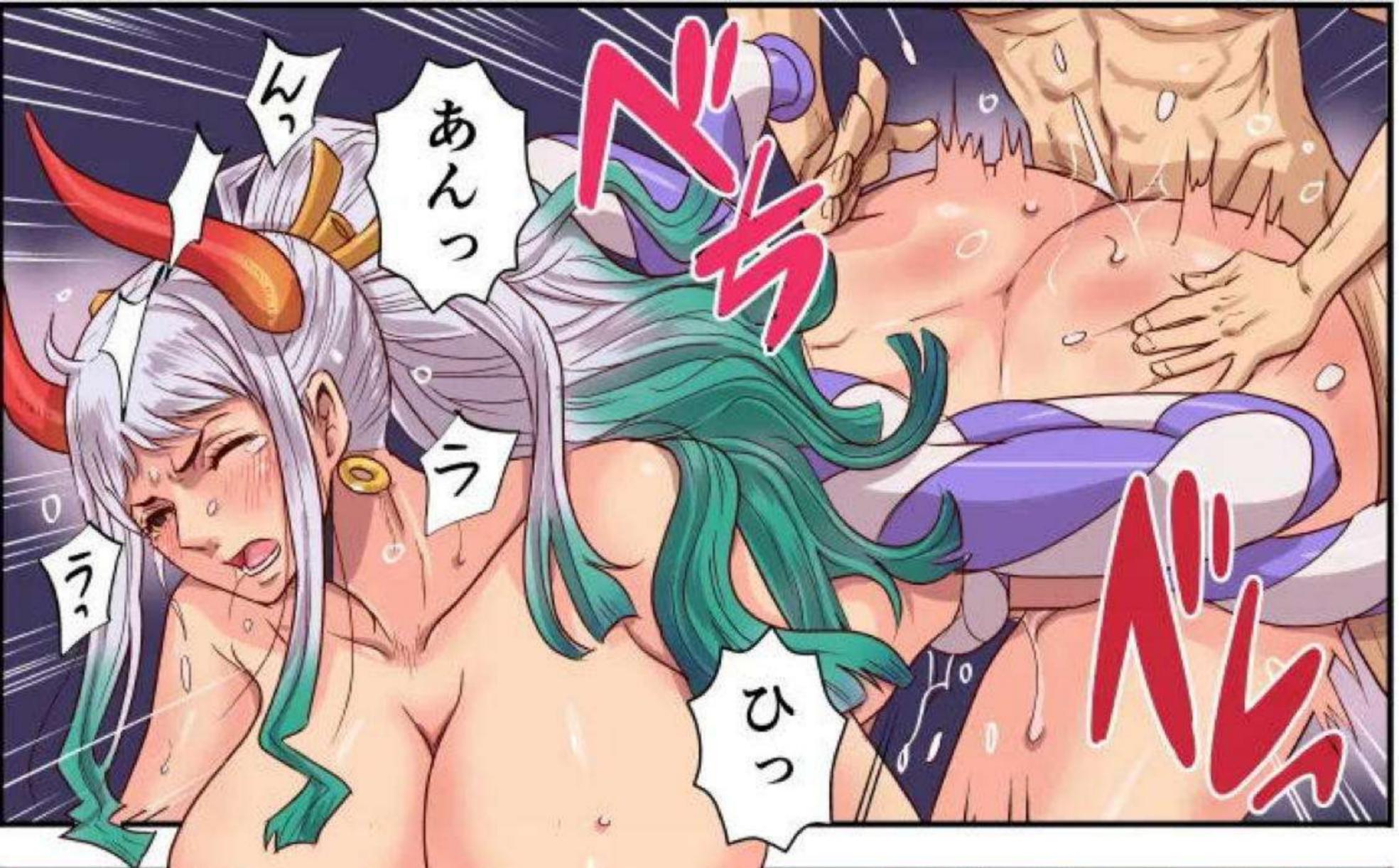
ズッ

ズッ

何かくるっ
スゴイ波が...っ







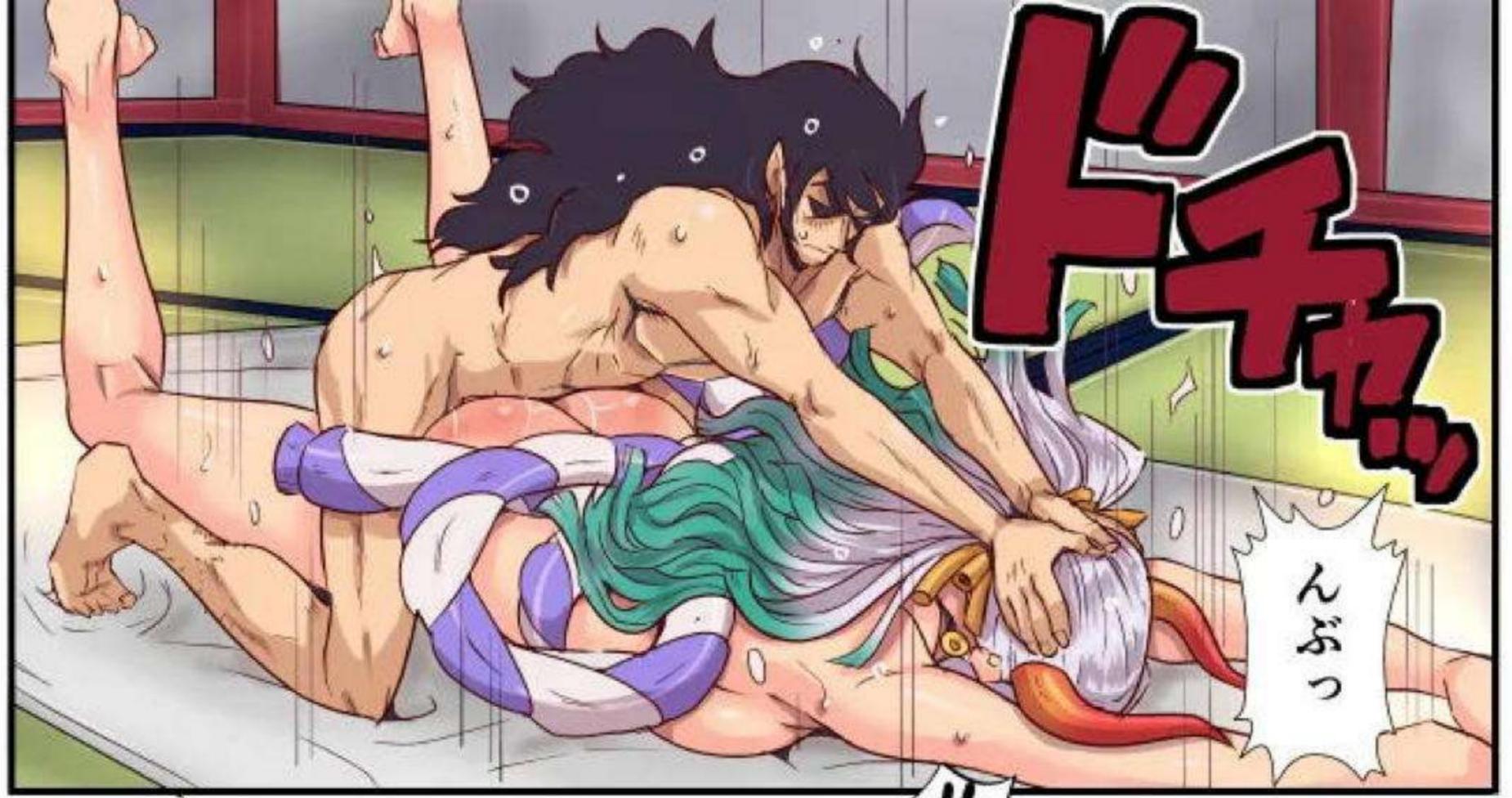
いいぞ
モモの助くん
キミの怒りを
すべてボクに
ぶつけてくれ...

そのために
ボクはいるんだ
からね...

痛い

はっ







あつダメ
角弱いんだっ

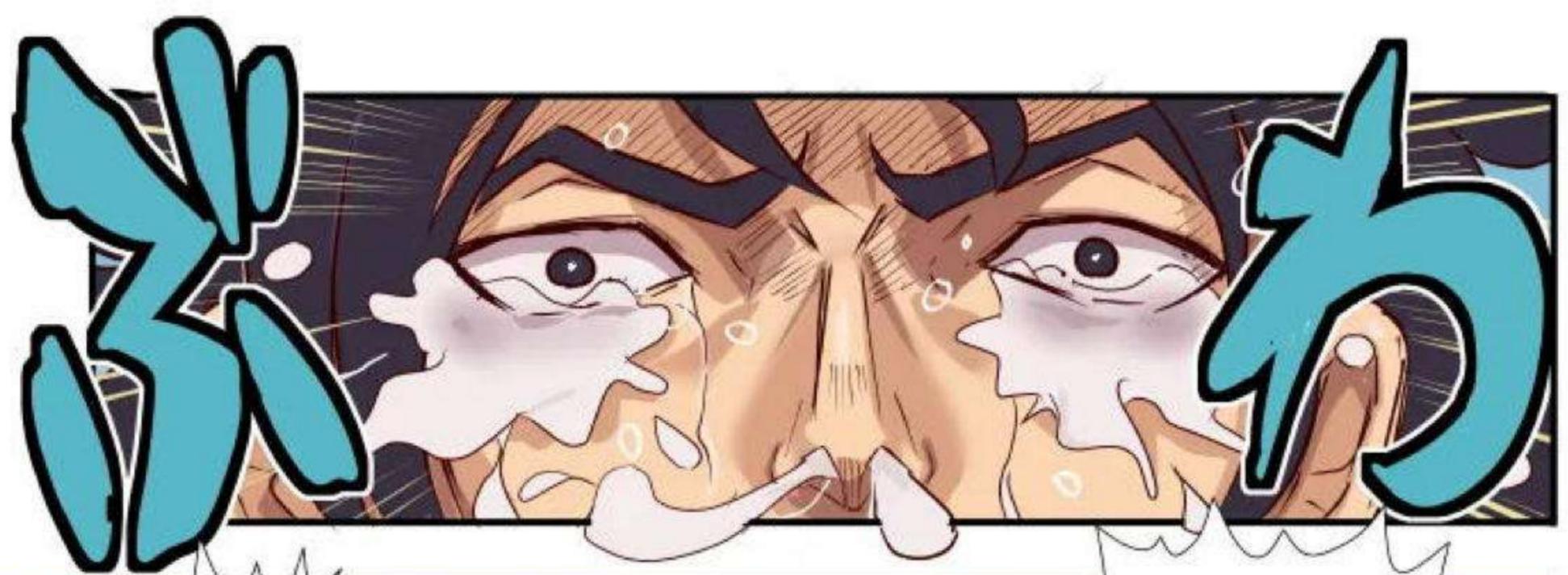


ズ
ズ
ズ



その怒り
受け止め
るからっ

ゴメンねっ
逆らわないよ



拙者がお主に
怒りや恨みなど
あるわけない
であろうっ

むしろ
その逆じゃっ

えっ？





拙者にとって
お主は共に戦い
助け合った仲間で
ござるっ

ギリギリ



憎いのは
カイドウで
お主ではないっ

だ、だいいち…



あ、愛して…おる



ドキ

ドキ

そ…それに
男の子は…



もちろん
おなごとして

いびん

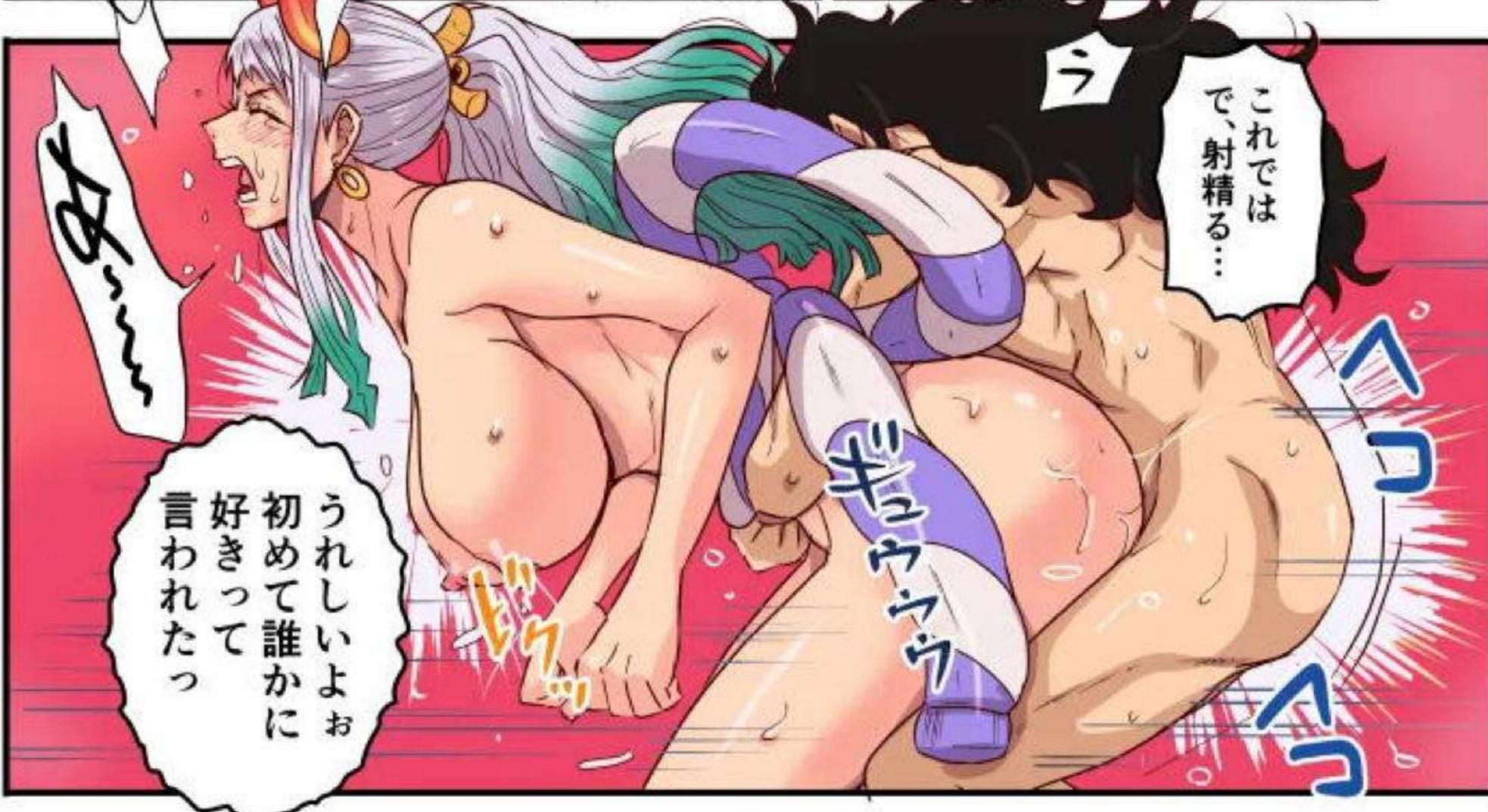


きゃん



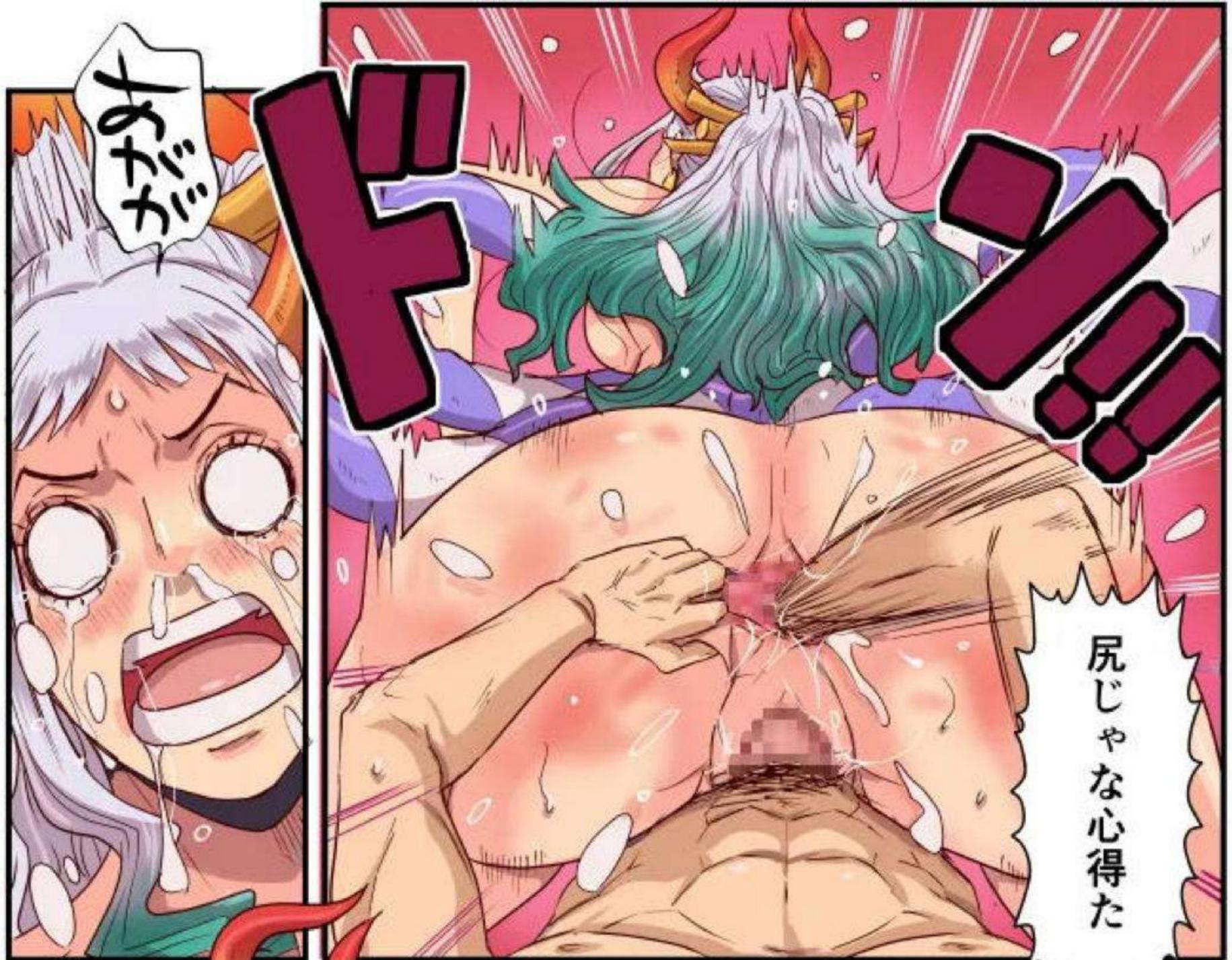
好きな女の子には
意地悪をしたく
なるのでござる

ん











ヤマトー
安心してくれ

はー

はー

見てくれ
腕もチンコも
両方抜けたで
ござるよ



…ヤマト？

ぽろぽろ

ぽろぽろ

びしょ

あが…
あが…

す、すまぬ
夢中になって
やりすぎて
しまった…



何を言うんだい
すっごい
良かったよ
気を失う
かと思った

キリッ



ん…

びしょ

びしょ



ゴキウ...

エヘ...

そんな
キミにしか
頼めないんだ...

だからさ...



ゴキウ...

ゴキウ...

やっぱり
キミは
思った通り
ボクの望みを
叶えてくれる
漢だよ



やった
ありがとう

モウヒロウ
事なニカレ
ンナシヤメ

お主がそれを
望むなら
任されよ

ゴキウ...



もっとボクを
イジメて
くれるかい？

かあ♡





モモの助くん
キミは
どうだい？



ふふ…
チンポで
わかったよ



これから
未来永劫
キミにだけ
服従する…

そう考えると
胸の所が
ゾクゾクするよ



いいかい
変な優しさは
ダメだよ

あくまで
モノ扱いして
ほしいんだ





モモの助くん...

はっ

フッ

はっ

はっ

フッ



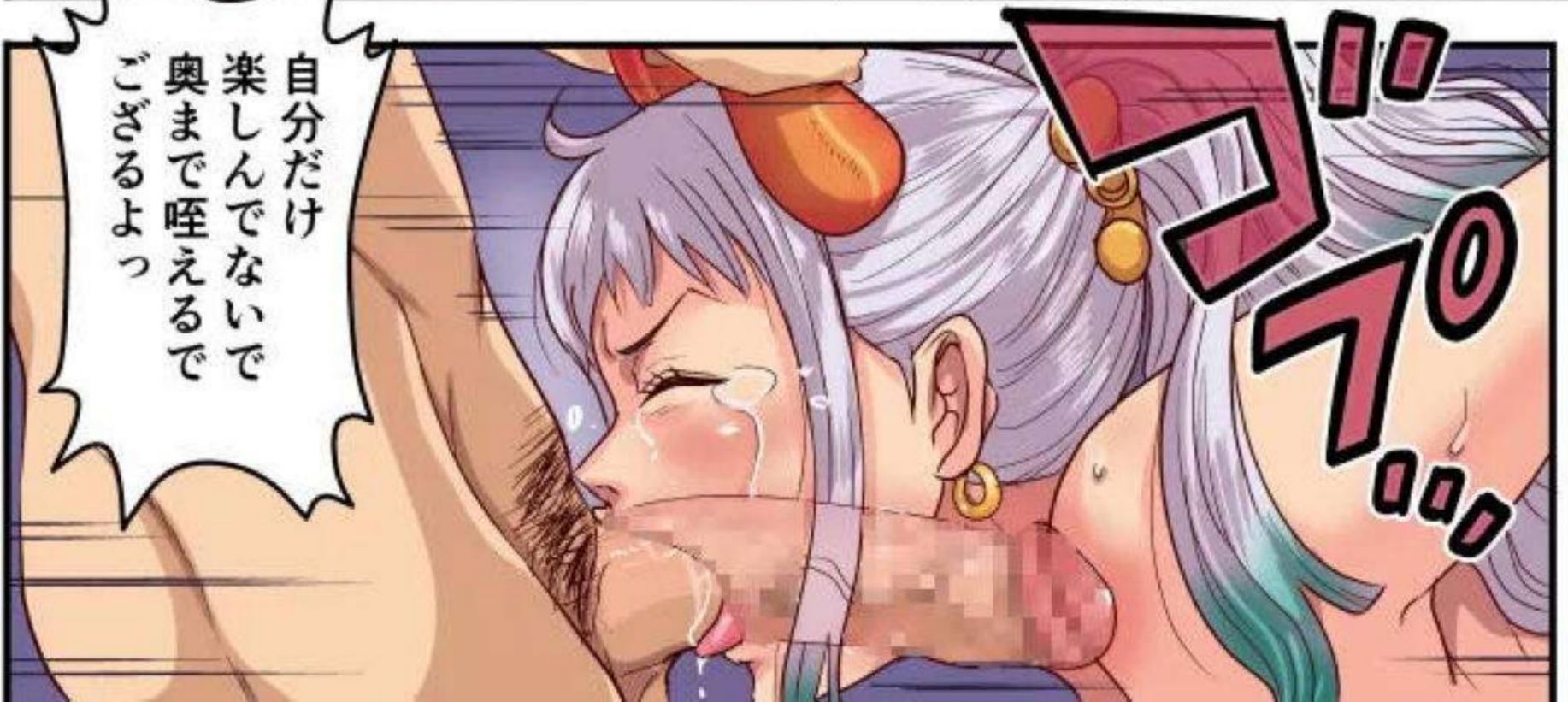
クワッ
クワッ

んふ

んふ

ジョ

ジョ



クワッ

自分だけ
楽しんでないで
奥まで啜えるで
ござるよっ







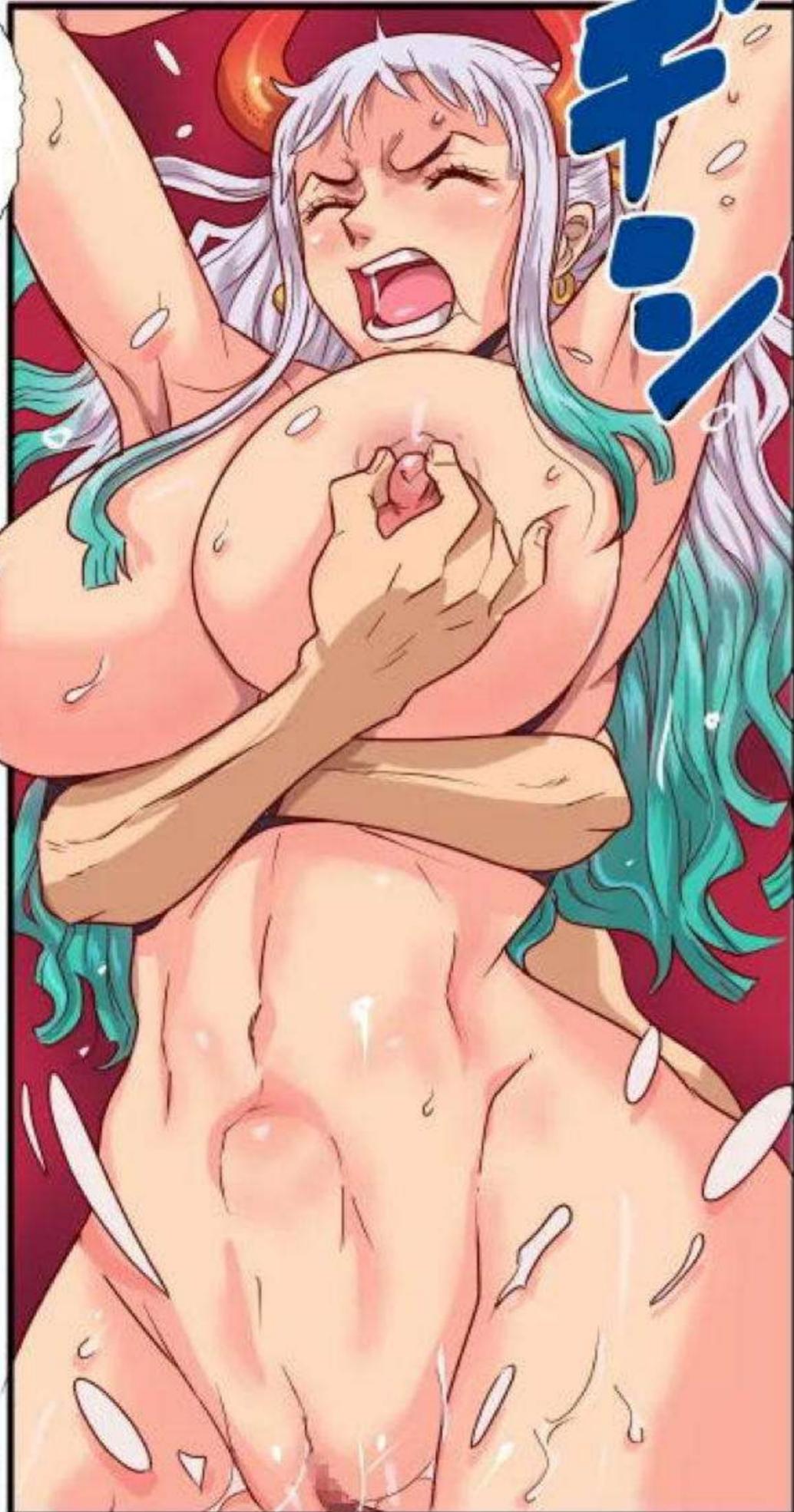




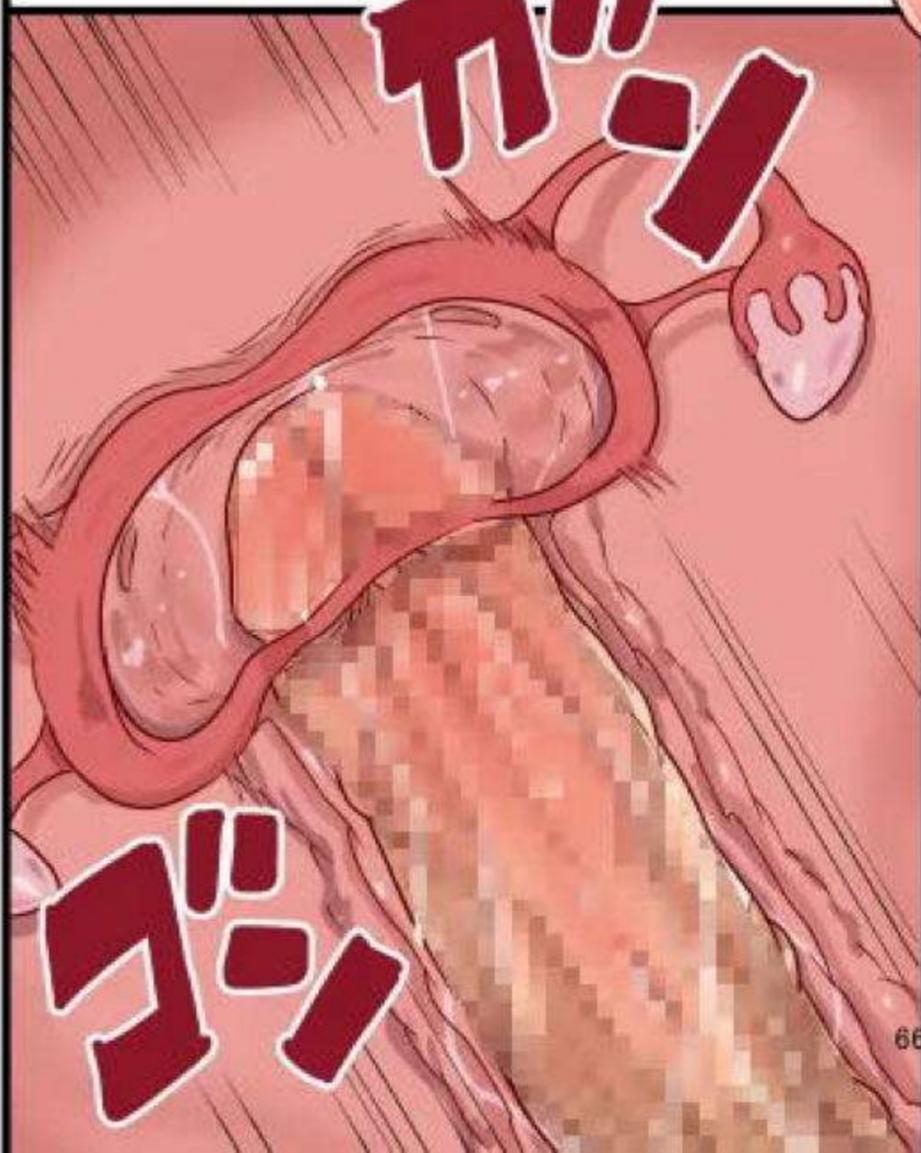
こんなの…



こんな
すごい…



ギ
ン



ガ
ン

ゴ
ン



耐えられるわけ
ないよっ

ギィ
ギィ

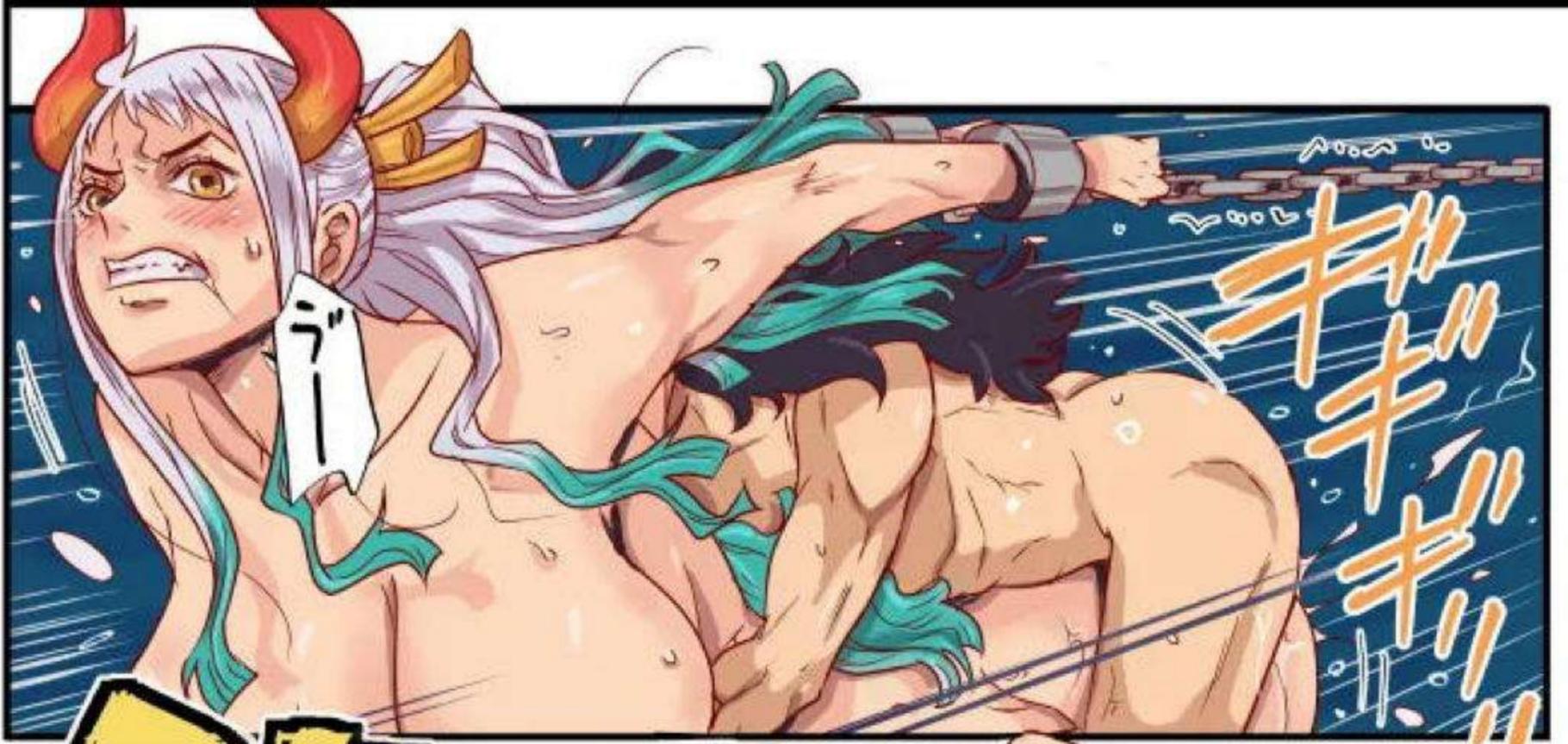


んぎんぎんぎんぎん



あ
あがっ
がっ

ゴッ
ゴッ





ははは
どうだヤマト

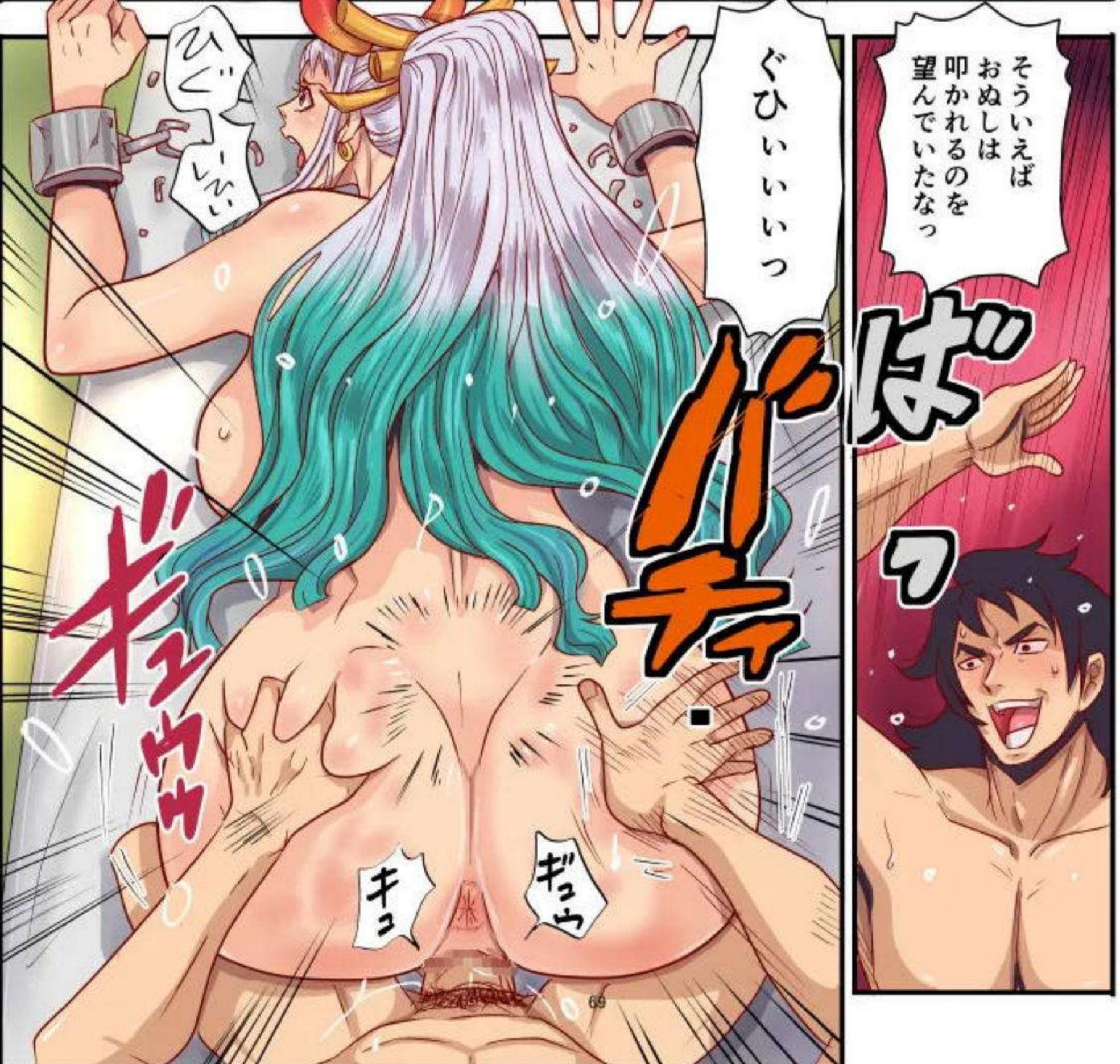
こういうのが
欲しかったので
あるろう？

ぶる
ぶる

ゴゴ

ズグ

たぐ



そういえば
おぬしは
叩かれるのを
望んでいたなっ

ぐひいいうっ

ば

ガッ

ギョウ

キュ

キュ





意識飛ぶかと思っただ...

すごいよお

ガク

ガク

ビュッ

ビュッ



はあ

はあ

はあ



あ...ああ
とっっても...ね

ど...どうじゃ
満足...
できたか

はあ

はあ

ゴッ



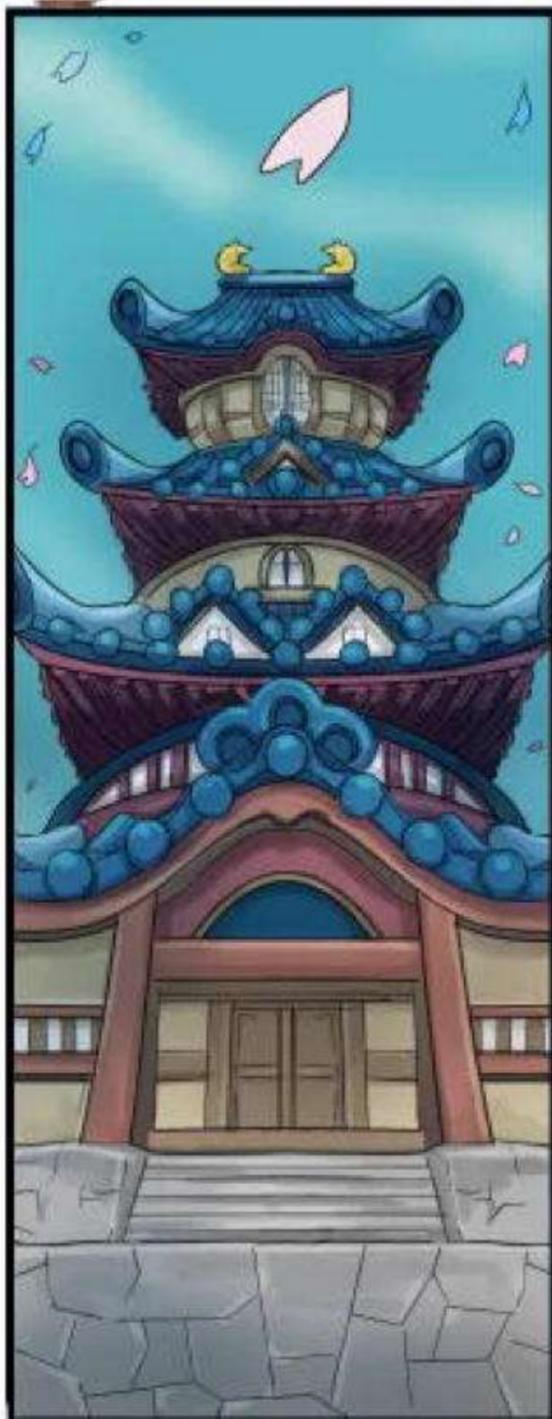
そのための
準備は...

キミが
満たされる
まで付き合う
からね

キミは
どうだい？



じゃああああん



ふふふ

ははは



ヤマトおぬし
壊れてしまう
かもしれぬぞ

平気さ
ボクは壊れたり
しないよ



その子
男の子だって？

あ、兄上が
父親に...

うん...
うん...

これで
光月家も
安泰で
ありますな

あ、
動いた♡

描きたかったのは全肯定ヤマト。

ご講読ありがとうございます。
前々から作りたかったヤマト本です、

ヤマトが一味に加わらなかった理由を自分なりに
解釈してこの話を考えました。
光月おでんに心酔しきっていたヤマトがその一人息子の
モモの助という存在と成長を間近に見続けたが故の…
って感じです。

そんなヤマトですからもうベタ惚れなわけで、全肯定なのです。
恐らく命令されれば尻穴だってペロペロしちゃうでしょう。
そういうシーンも描きたかったのですが際限なく増えるページで
いつまでも完成しないのもダメだと思い今回はこの辺に…です。
反響があればそういったやり残した部分を描きたいとも思っ
ております。

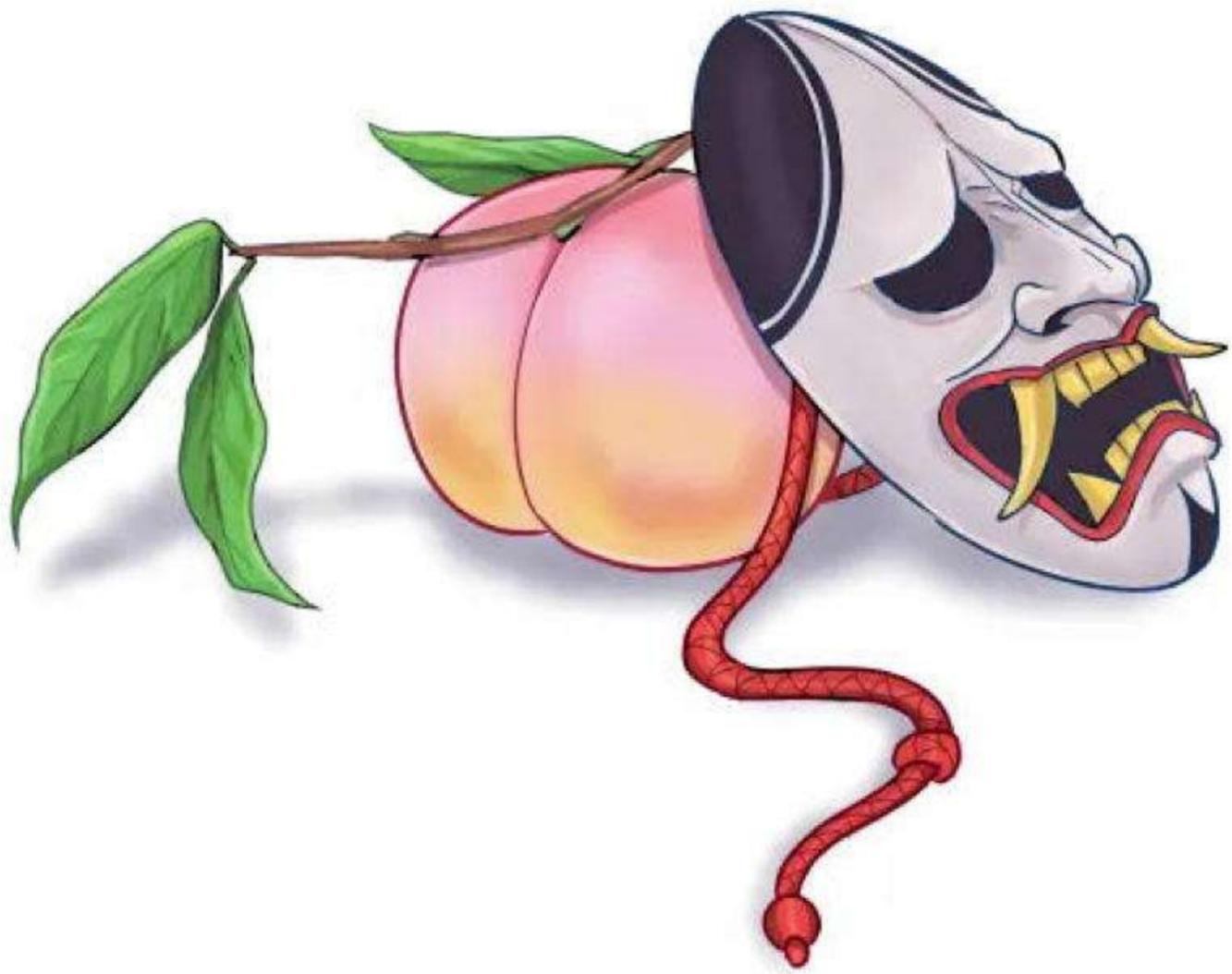
自分にだけ女の子を見せてくれる男勝りのコって最高だと思います。

では、次の作品でお会いしましょう。ありがとうございました。

格闘3回

X(旧Twitter) :@Ocock_san
Pixv :id=3372976

無断転載
18歳未満の方の閲覧は
ご遠慮ください



王国産

